

愛媛県内の状況

【 R3.11.11 9時現在 】

<封じ込め・終了事例>

事例	公表日	検査数	陰性	陽性	関係者調査	PCR検査	健康観察
対処事例①: 1714事例 ※欠番: 30事例		38,990	33,651	5,339	●	●	●
松山市保健所: 1事例 (1746事例目)		4	3	1	●	●	●
西条保健所: 1事例 (1695事例目)		33	27	6	●	●	●
今治保健所: 2事例 (1729、1745事例目)		17	12	5	●	●	●

<囲い込み事例>

対処事例②: 14事例		323	294	29	●	●	○
1742事例目 (松山市保健所)	10/26	(1) 55	(1) 46	9	●	●	○
松山市保健所: 2事例 (1754、1760事例目)		(1) 181	(1) 164	17	●	●	○

<調査中事例>

対処事例③: 1事例		1	0	1	○	○	○
1761事例目 (松山市保健所)	11/10	(1) 2	(1) 1	1	○	○	○
上記以外	PCR検査	(10) 65,493	(10) 65,493		—	—	—
	抗原検査	56,837	56,837				
合計		(13) 161,936	(13) 156,528	(0) 5,408	衛生環境研究所等の検査 かかりつけ医等の検査		0件 0件
診療・検査医療機関での検査数 (金曜日に1週間の合計を計上)		前週 1日平均	240件				

【凡例】 ●: 接触者特定済、検査完了、健康観察終了
○: 接触者特定中、検査中、健康観察中

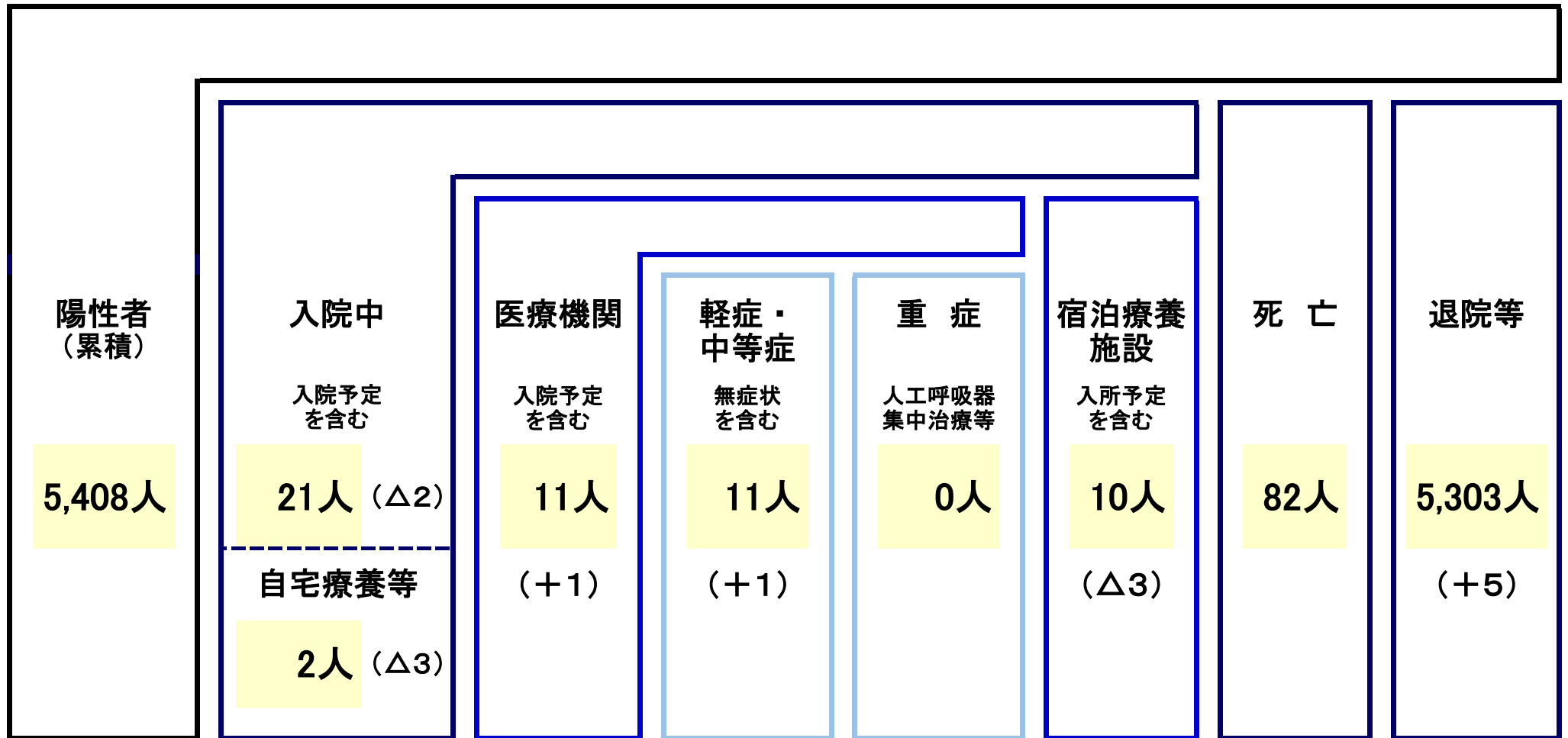
※上記の()内の検査数は、対応中の事例に関して昨日実施した検査並びに衛生環境研究所及び地域外来・検査センターで実施した検査の件数です。

◆ゲノム解析結果(R3.3.1以降実施分)

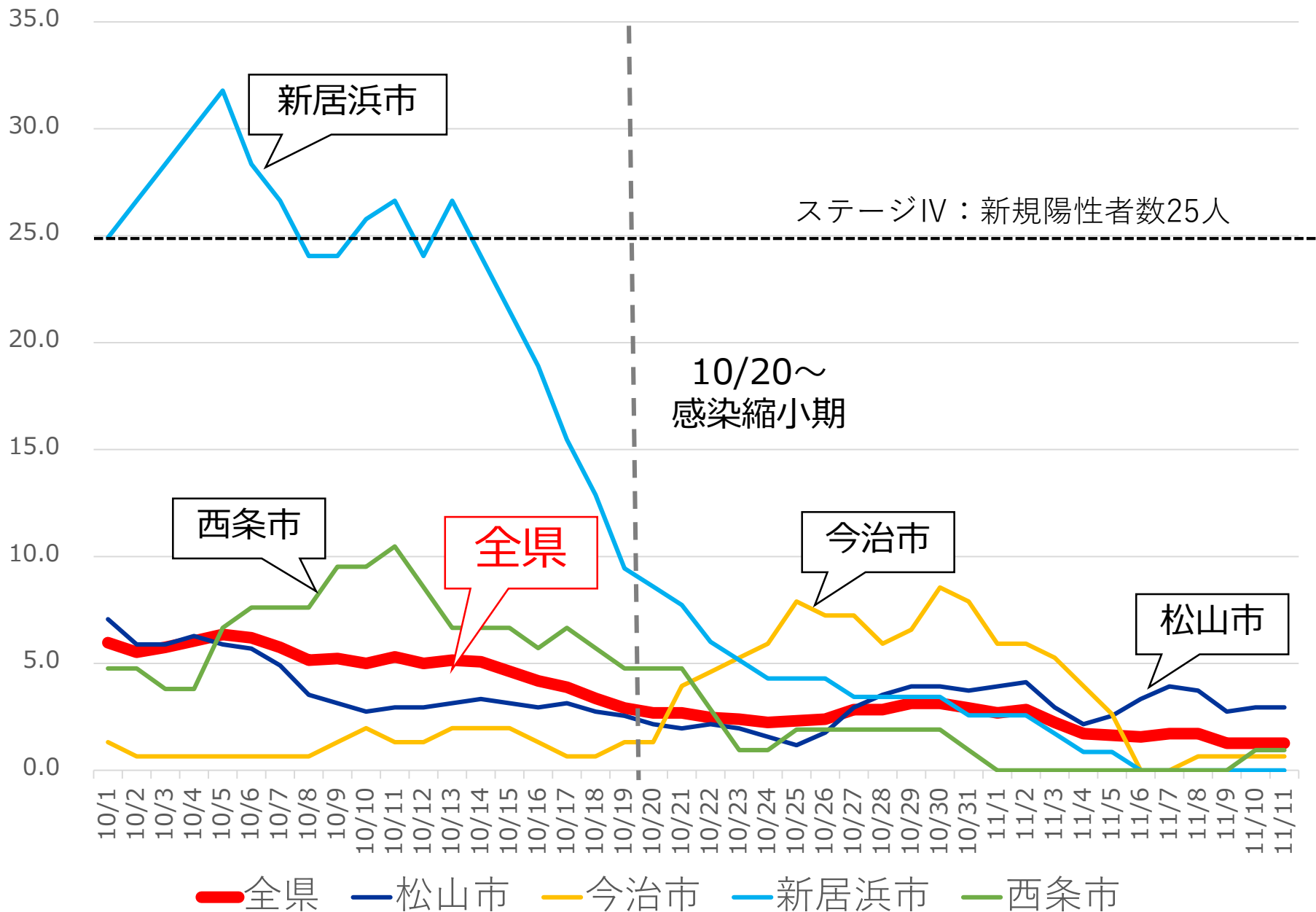
アルファ株 (N501Y変異)	デルタ株 (L452R変異)	その他	合計
144	(1) 262	0	(1) 406

県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について

令和3年11月11日 9時現在

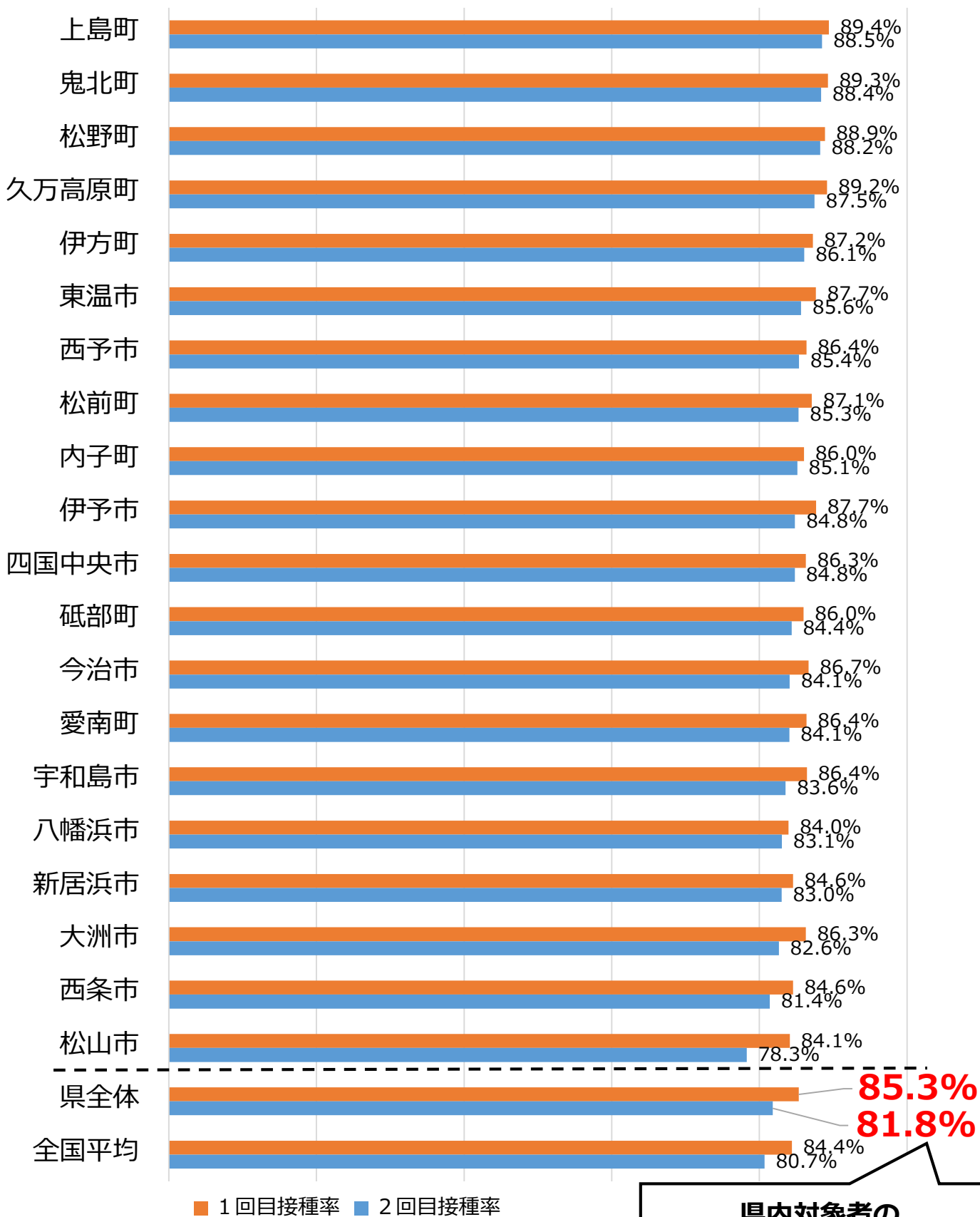


全県・松山市・東予3市の人口10万人あたり陽性者数の推移



市町別のワクチン接種率(11/8時点)

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



■ 1回目接種率 ■ 2回目接種率

**県内対象者の
85%超が1回目接種終了、
81%超が2回の接種を完了**

※ 2回目接種率順・VRS（ワクチン接種記録システム）に基づく
 ※ 接種率 = 接種済回数 / 接種対象者数（R3.1.1時点の12歳以上人口）

年代別の接種見込 (11/8時点)

・ 全年代の接種率（2回目）見込は、85.3%（各年代とも70%以上が接種見込）

※11/8までの接種実績に予約数を加えたもの。

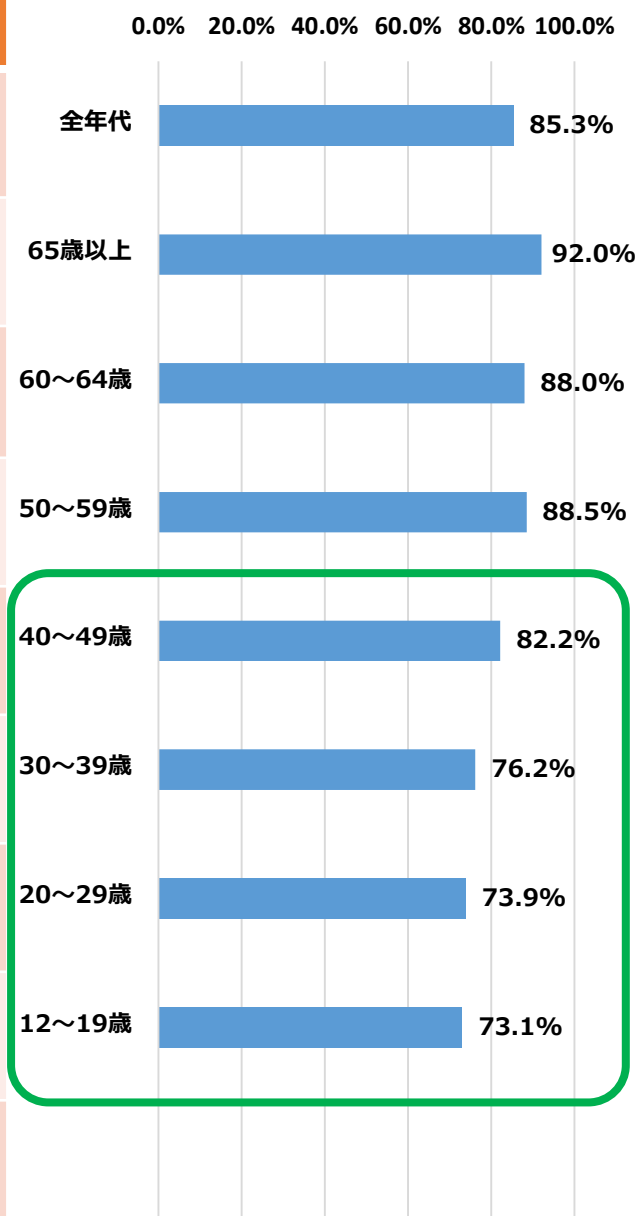
・ 若年層（10代、20代）の接種率は73.5%となる見込み

・ 40代以下（若い世代）の接種率は77.2%となる見込み（410,724人/532,181人）

年代区分	年代別人口 (R3.1.1時点) (A)	1回目 接種済み 人数 (B)
<u>全年代 (12歳以上)</u>	<u>1,233,081</u>	<u>1,052,363</u>
高齢者 (65歳以上)	443,466	408,131
60～64歳	87,756	77,230
50代	169,678	150,123
40代	183,593	150,859
30代	136,791	104,196
20代	115,256	85,145
10代 (12～19歳)	96,541	70,524
年代不明	—	6,155

・ 接種見込割合 = (B) / (A)

※ワクチン接種状況ダッシュボードに基づく



※「年代不明」はシステム上のエラーであり、市町において今後精査される。

第5波の振り返りと今後の対応

- 7/14 県内で「L452R変異株（デルタ株疑）」初確認以降、県内で陽性者が増加し、デルタ株により感染拡大
- 7/29 「感染警戒期～特別警戒期間～」へ引き上げ
- 8/11 一日あたり過去最多を大幅に超える85名の陽性確認警戒レベルを最も高い「感染対策期」に引き上げ
- 8/16 営業時間の短縮要請（松山市の酒類提供をする飲食店）
- 8/19 一日あたり過去最多の102名の陽性確認
- 8/20 国の「まん延防止等重点措置」の適用
営業時間の短縮要請（松山市内の飲食店）
- 8/24 療養・入院者数が740名（最多）
- 8/29 入院患者数が123名（最多）
- 9/12 「まん延防止等重点措置」終了
- 9/30 「感染対策期」終了
- 10/1 「感染警戒期」へ切り替え
- 10/20 「感染縮小期」へ切り替え

第5波の特徴（第4波との比較）

区分	第4波 （アルファ株中心）	第5波 （デルタ株中心）
期間	103日間 （令和3年3月20日～6月30日）	134日間 （令和3年7月1日～11月11日）
陽性者数（事例数）	1,677名（485事例）	2,654名（915事例）
うちクラスター関係	655名（25事例） ※繁華街クラスター203名含む	591名（40事例）
最大陽性者数/日	最大59名/日	最大102名/日
検査数	59,123件	66,482件
陽性率	2.8%	4.0%
感染経路不明率	24.0%	26.5%

第5波の特徴（第4波との比較）

区分	第4波 (アルファ株中心)	第5波 (デルタ株中心)
療養・入院者数	最大486名/日	最大740名/日
医療機関入院者数	最大112名/日	最大123名/日
宿泊療養施設入所者数	最大58名/日	最大116名/日
自宅療養者数	最大357名/日	最大540名/日
死亡者数	51名	7名
重症者数	36名（最大13名/日）	21名（最大7名/日）

第5波の陽性者の年代（第4波との比較）

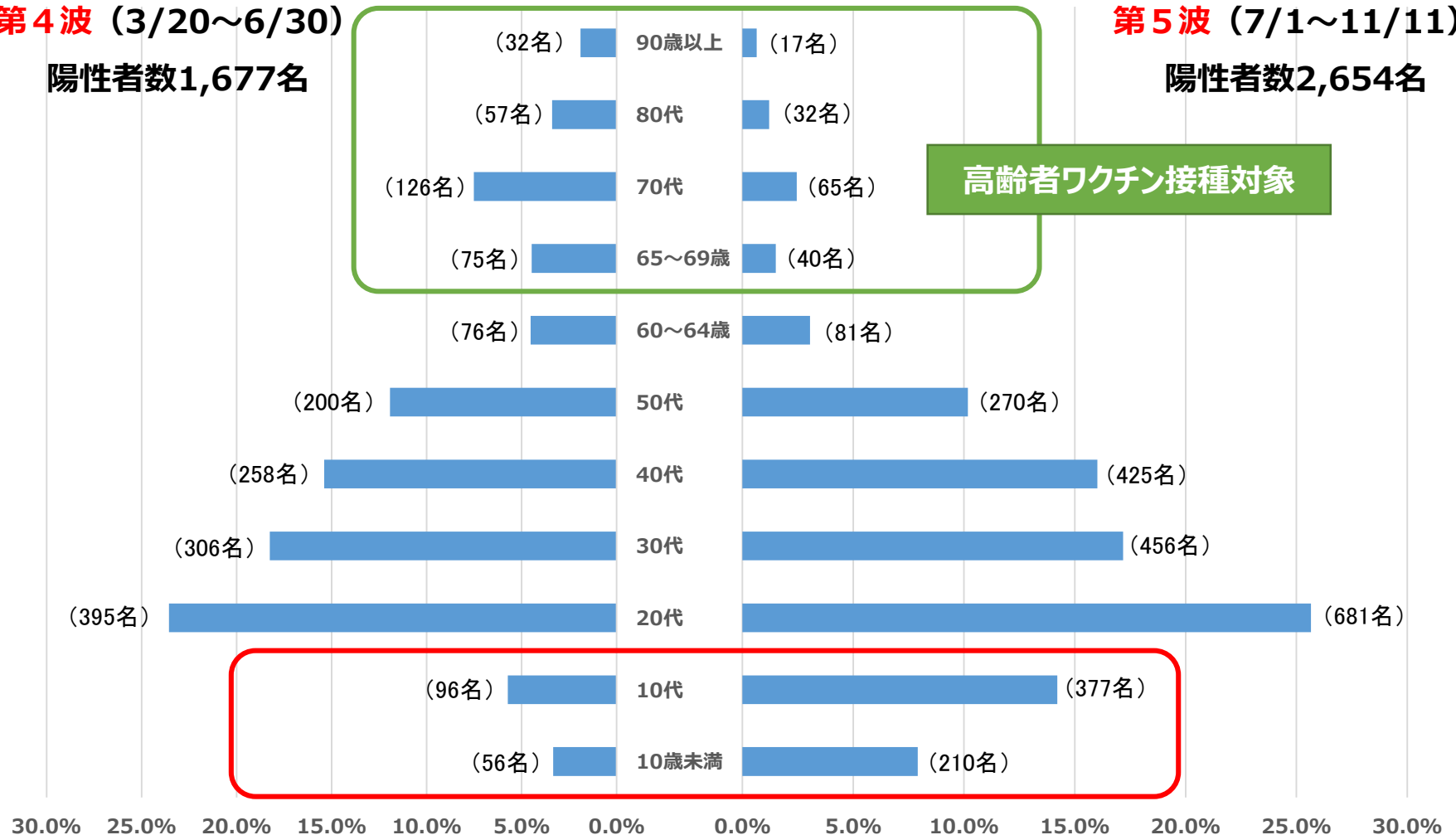
- 第4波と第5波では10代以下の比率が倍以上（帰省や旅行など県外由来の家庭内感染が多数）
- 第5波では、第4波に比べて65歳以上の比率が非常に低い ⇒ **ワクチン接種の効果とみられる**

第4波（3/20～6/30）

陽性者数1,677名

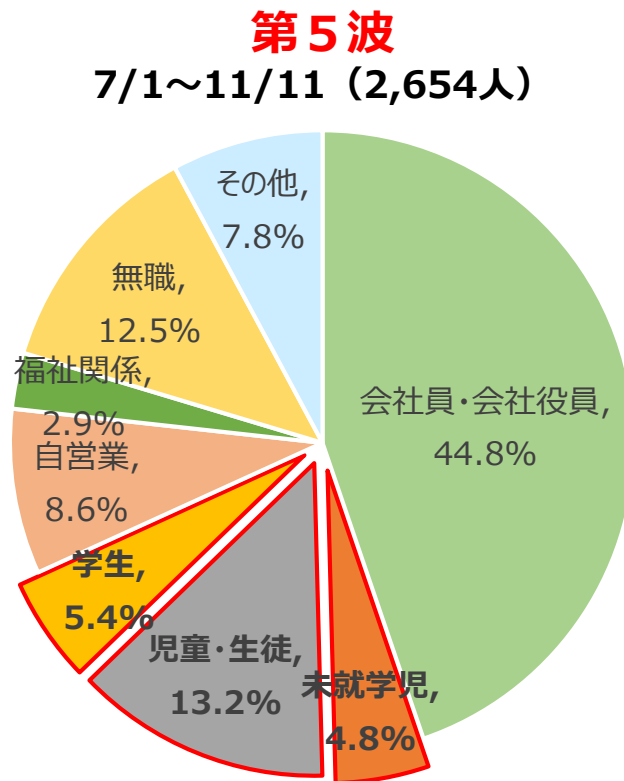
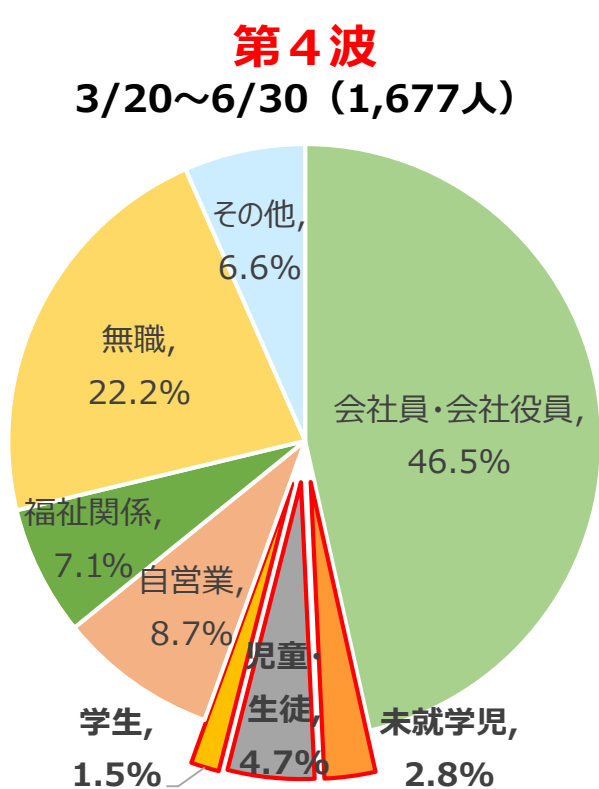
第5波（7/1～11/11）

陽性者数2,654名



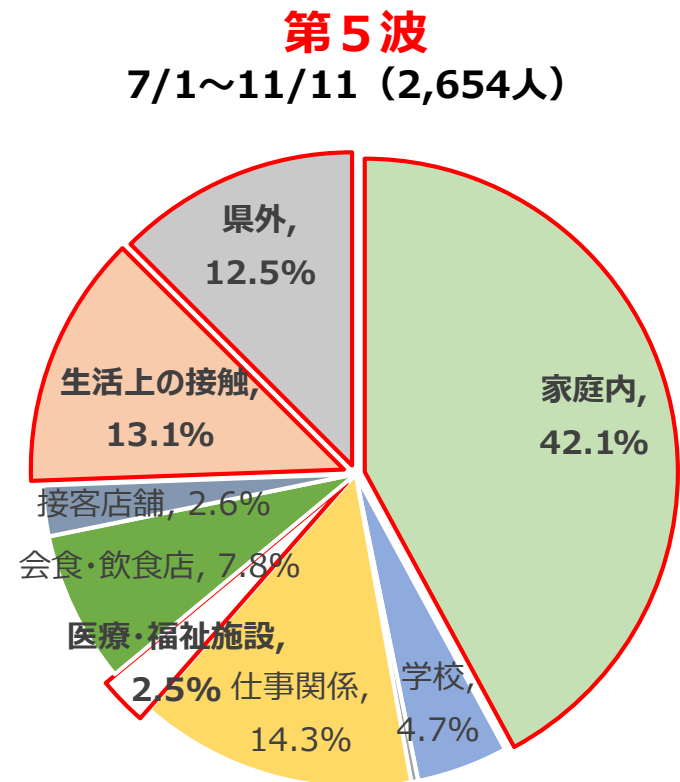
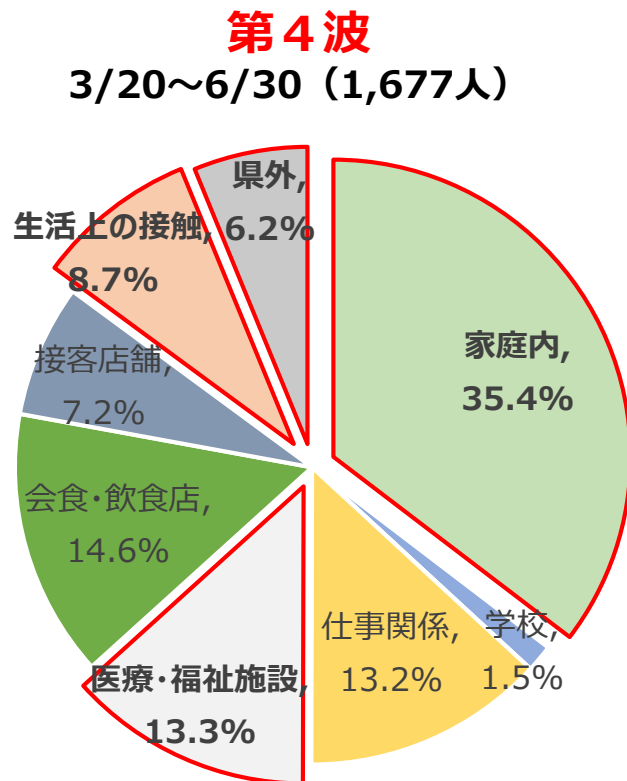
第5波の陽性者の職種（第4波との比較）

- 「未就学児」、「児童・生徒」、「学生」の割合が**大きく増加**
- 学校内での感染対策の更なる徹底を
- 家庭内に感染を持ち込まないよう大人の**感染回避行動の徹底**が必要



第5波の陽性者の感染経路（第4波との比較）

- デルタ株の感染力の強さにより、
感染経路は「家庭内」、「生活上の接触」が大きく増加
- 第5波は「夏休み・お盆期間」に重なったことで、「県外」が大きく増加
- ワクチン接種の効果により、「医療・福祉施設」は大きく減少



ワクチン接種と10月以降の陽性者の状況

- ワクチン接種が大きく進展し、**2回接種者は県民の8割**を超える
- 一方、10月以降の**陽性確認者は、「未接種・1回接種」者が8割**

○ ワクチン接種状況（11月9日公表時点）



○ 10月以降の陽性者のワクチン接種状況



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

第5波への対処の評価（主なもの）

- 患者急増時でも、更なる病床確保により、入院治療が必要な患者は、速やかに医療機関に入院できた
（陽性判明した日から入院完了までに要した平均日数：0.77日）
- 感染拡大が顕著であった東予地域では、増床及び宿泊療養施設の追加により、地域内での入院等の対応力が向上した
（東予地域における域外搬送率：58.4% ⇒ 34.2%）
- 自宅療養者のフォロー体制強化により、医療にアクセスできず死亡する事例の発生を防いだ
（自宅療養者が医療にアクセスできず死亡した事例：なし）
- 一部の保健所で一時的に疫学調査の重点化を余儀なくされたが、初動対応は応援体制の強化により、迅速に実施できた
（陽性判明当日の保健所からの連絡率：約95.5%）

今後の新たな対策等①

○ 第6波に備えた病床の確保

- 公的医療機関で23床増床、臨時医療施設（宿泊療養施設）10室活用
- 最大確保病床278床 ⇒ **最大311床 <33床拡充>**

区 分		病床確保計画 (9/11時点)
		最大確保病床数 (床)
重症	県全体	26
中等症	県全体	252
	東 予	77
	中 予	106
	南 予	69
合 計 (医療機関数)		278 (26)



今回拡充 (11/11現在)	
最大確保病床数 (床)	増加数 (床)
26	—
285	+33
80	+ 3
134	+28
71	+ 2
311 (28)	+33 (+2)

今後の新たな対策等②

○ 高齢者施設面会モデルの構築

- 入所高齢者と家族等が安全・安心に面会を行うための方法等を検証し、施設の特性に応じた感染防止を図りながら面会が継続できる仕組みを構築

- ・ 協力施設：特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅
- ・ 実施内容：施設で面会を試行実施 ⇒ 県と施設で検証 ⇒ 面会モデルを確定・周知

○ 県立学校の休業措置対応の変更による学びへの影響最小化

- 臨時休業を措置する場合は「全校対象」とする原則は変更しないが、保健所による調査結果に基づく検査対象範囲等の状況に応じて、「学年・学級閉鎖」による対応も可能とするよう変更

- ・ 陽性者が確認された学校延べ224校中、陽性者が1名のみ止まる割合：81.3%（延べ182校）
 - ・ 臨時休業した学校延べ30校中、検査対象者が学級内に止まった割合：33.3%（延べ10校）
- ※学校は小、中、高等学校（私立学校を含む）

今後の新たな対策等③

○ 公表内容の追加

- **陽性者の保健所対応状況**を毎週公表（1週間累計）
 - ・ 陽性判明当日の保健所からの連絡率
 - ・ 陽性判明した日から入院完了までに要した日数
（自宅療養や宿泊療養中に症状が悪化するなど入院に至った方を除く）

○ 変異株検査体制の変更

- 衛生環境研究所による**変異株PCR検査を一時中断**（ゲノム解析は継続）
- 新たな変異株発生時にはPCR検査を再開

この冬を乗り越える！愛顔の応援パッケージ2021

- 第5波は収束をみせ、ワクチン2回接種も県民の8割を大きく上回る見込み。若年者も7割を超え、全世代で進捗。
- 一方で、コロナ禍で地域経済は大きな影響を受けており、年末にかけて無利子融資の返済など、多くの中小企業等が厳しい状況。
- 昨年は11月下旬からコロナが流行、この冬はインフルエンザとの同時流行の可能性も指摘されている。病床確保や感染対策を講じながら、この冬を乗り越えるための各般の施策を力強く展開

- ① 県民の元気回復支援
- ② 厳しい経営状況にある事業者への更なる支援
- ③ 医療提供体制の充実
- ④ 高齢者施設・学校の安全・安心の確保

この冬を乗り越える！愛顔の応援パッケージ2021

【①県民の元気回復支援】

○県内宿泊割引の追加による県内旅行促進

- 追加発行数：「みきゃん割」4万人泊分、「こみきゃん割」1万人泊分
- 受付開始：11月20日（土）※12月末まで

○文化芸術の鑑賞機会、読書の増進のための支援

- 発行数：「文化鑑賞券」2万組、「読書券」2万組（1組1,000円×2枚）
- 応募期間：11月15日（月）～（公式HP等で応募）※上限に達し次第終了

○スポーツ・文化芸術活動の再開に向けた支援

- 支援内容：スポーツ・文化団体等が行う活動に対して上限20万円を助成
- 助成団体：49団体 ※募集期間終了

【②厳しい経営状況にある事業者への更なる支援】

○中小企業者への第3弾えひめ版応援金による支援

○愛顔の安心飲食店の認証取得への支援

○輸送収入が減少した公共交通事業者への支援

【③医療提供体制の充実】

○コロナ患者の受入病床の更なる追加確保

➤ 公立・公的医療機関等を33床追加（278床→最大311床）

○自宅療養者のフォローアップ体制の強化

➤ 医療機関による電話等オンライン診療体制を拡充

【④高齢者施設・学校の安全・安心の確保】

○高齢者施設における面会モデルの構築

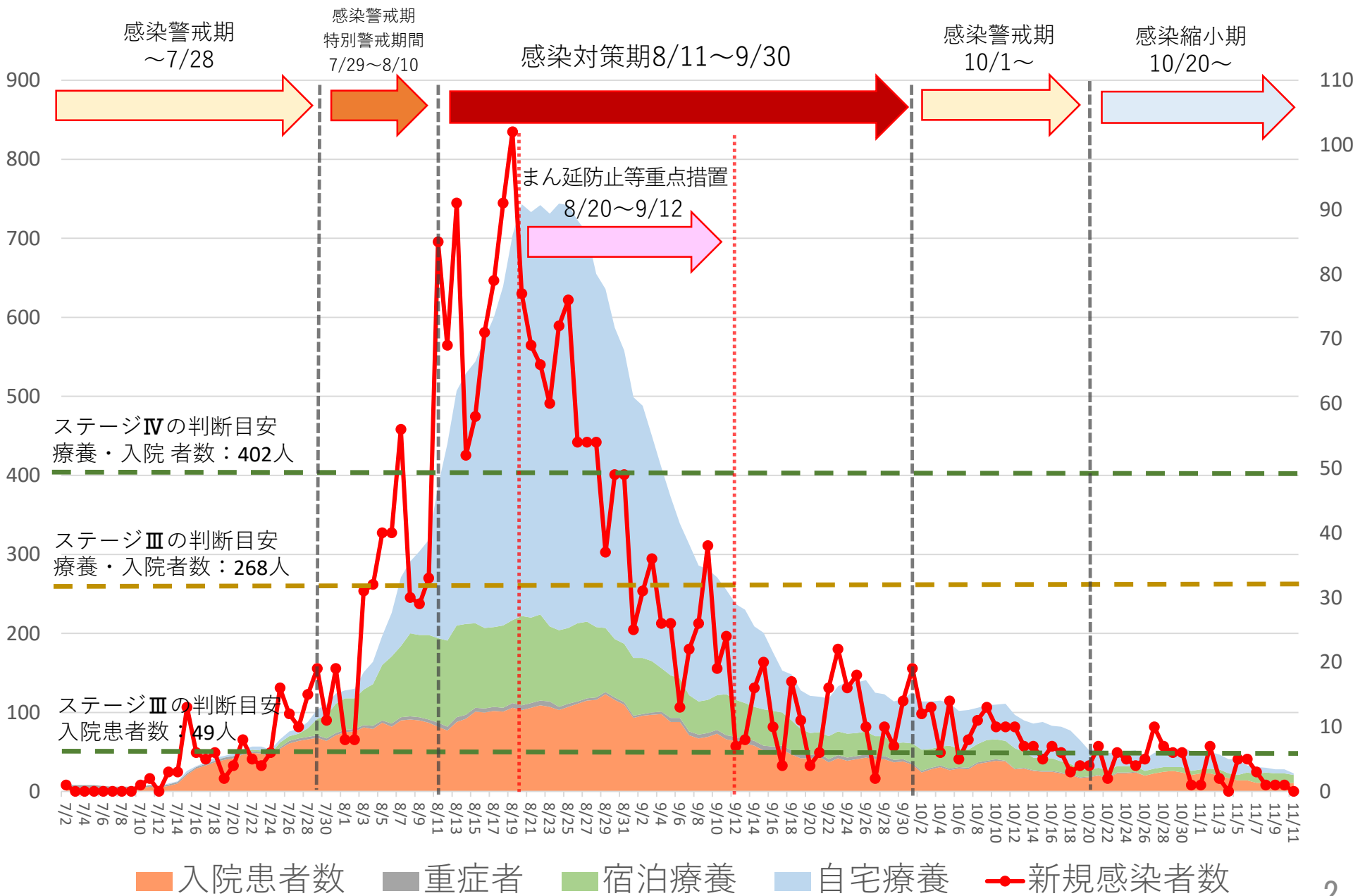
➤ 施設の特性に応じて感染防止を図りながら面会が継続できる仕組みを構築

○私立学校が行う感染防止対策への財政支援の強化

第5波の振り返りと今後の対応

- 7/14 県内で「L452R変異株（デルタ株疑）」初確認以降、県内で陽性者が増加し、デルタ株により感染拡大
- 7/29 「感染警戒期～特別警戒期間～」へ引き上げ
- 8/11 一日あたり過去最多を大幅に超える85名の陽性確認警戒レベルを最も高い「感染対策期」に引き上げ
- 8/16 営業時間の短縮要請（松山市の酒類提供をする飲食店）
- 8/19 一日あたり過去最多の102名の陽性確認
- 8/20 国の「まん延防止等重点措置」の適用
営業時間の短縮要請（松山市内の飲食店）
- 8/24 療養・入院者数が740名（最多）
- 8/29 入院患者数が123名（最多）
- 9/12 「まん延防止等重点措置」終了
- 9/30 「感染対策期」終了
- 10/1 「感染警戒期」へ切り替え
- 10/20 「感染縮小期」へ切り替え

第5波の新規陽性者・入院患者数等の推移



第5波の特徴（第4波との比較）

区分	第4波 (アルファ株中心)	第5波 (デルタ株中心)
期間	103日間 (令和3年3月20日～6月30日)	134日間 (令和3年7月1日～11月11日)
陽性者数（事例数）	1,677名（485事例）	2,654名（915事例）
うちクラスター関係	655名（25事例） ※繁華街クラスター203名含む	591名（40事例）
最大陽性者数/日	最大59名/日	最大102名/日
検査数	59,123件	66,482件
陽性率	2.8%	4.0%
感染経路不明率	24.0%	26.5%

第5波の特徴（第4波との比較）

区分	第4波 (アルファ株中心)	第5波 (デルタ株中心)
療養・入院者数	最大486名/日	最大740名/日
医療機関入院者数	最大112名/日	最大123名/日
宿泊療養施設入所者数	最大58名/日	最大116名/日
自宅療養者数	最大357名/日	最大540名/日
死亡者数	51名	7名
重症者数	36名（最大13名/日）	21名（最大7名/日）

第5波のクラスターの発生状況

区分	件数	内訳・詳細等
飲食店	7件	ホストクラブ 3件 ガールズバー 1件 接待を伴う飲食店 1件 深夜営業のバー 1件 郊外の飲食店 1件
会食・友人間	5件	「何軒もハシゴ」、「宅飲みで朝まで」など長時間のケースも
職場内・仕事関係	17件	製造業 9件（施設・設備建設現場等含む） サービス業 4件（清掃業、理美容業、土業） 卸売・小売業 2件（スーパー、製品卸） 金融・保険業 1件（金融業） 公務 1件（県）
学校 児童施設 スポーツ活動	6件	高等学校 3件 児童利用施設 2件 大学のスポーツ活動団体 1件
高齢者施設	2件	《市町別内訳》 松山市 20件、新居浜市 5件、今治市 4件 四国中央市 4件、西条市 3件、宇和島市 1件 砥部町 1件、松野町 1件、西予市 1件
音楽イベント	2件	
野外活動	1件	
	40件	

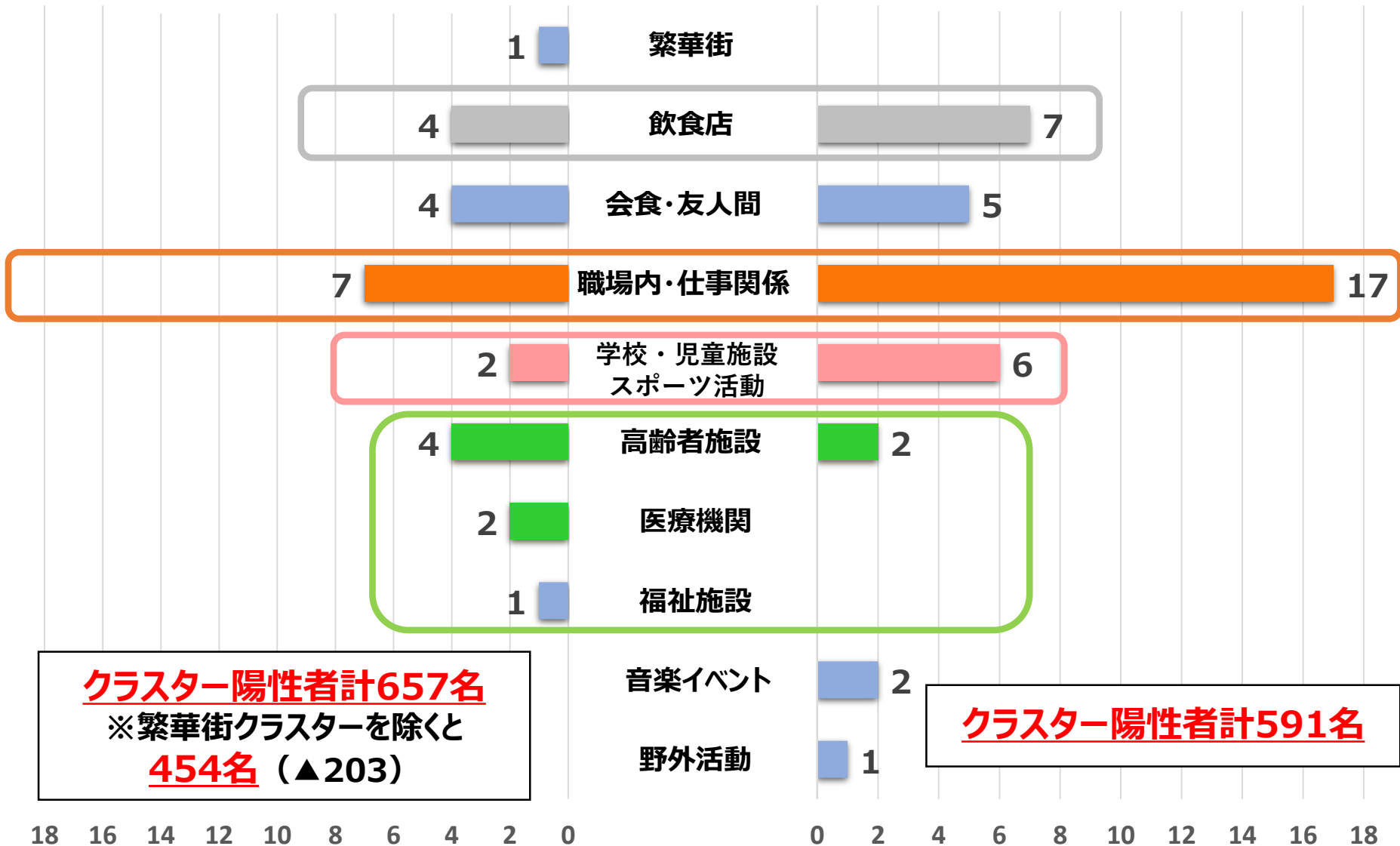
第5波のクラスターの発生状況（第4波との比較）

第4波（25件）

3/23～6/31：108日間

第5波（40件）

7/1～11/11：134日間



クラスター陽性者計657名

※繁華街クラスターを除くと

454名 (▲203)

クラスター陽性者計591名

第5波におけるクラスター発生傾向等

◆ 飲食店

- 感染対策が難しい業態の店舗を中心にクラスターが発生。
- 多くの事例で保健所への全面的な協力が得られ、調査・検査が順調に進捗。

◆ 職場内・仕事関係

- 勤務スペース以外のバックヤードで感染が拡大。
共有物（パソコン等）の消毒や換気が不十分な職場も。
- 出張や、県外事業者と共同での現場作業など、業務上やプライベートでの県外往来等で、感染が持ち込まれ、広がったケースが多い。

◆ 学校、スポーツ活動、児童施設

- 同じ部活動に所属する生徒・学生間で感染が拡大。
- 部活動のみならず、その前後の生活上の接触も確認。

◆ 高齢者施設、医療機関

- 施設や医療機関の感染対策の徹底、職員の注意深い行動。
- ワクチン接種の効果により、発生件数は第4波と比べて減少。

第5波の陽性者の年代（第4波との比較）

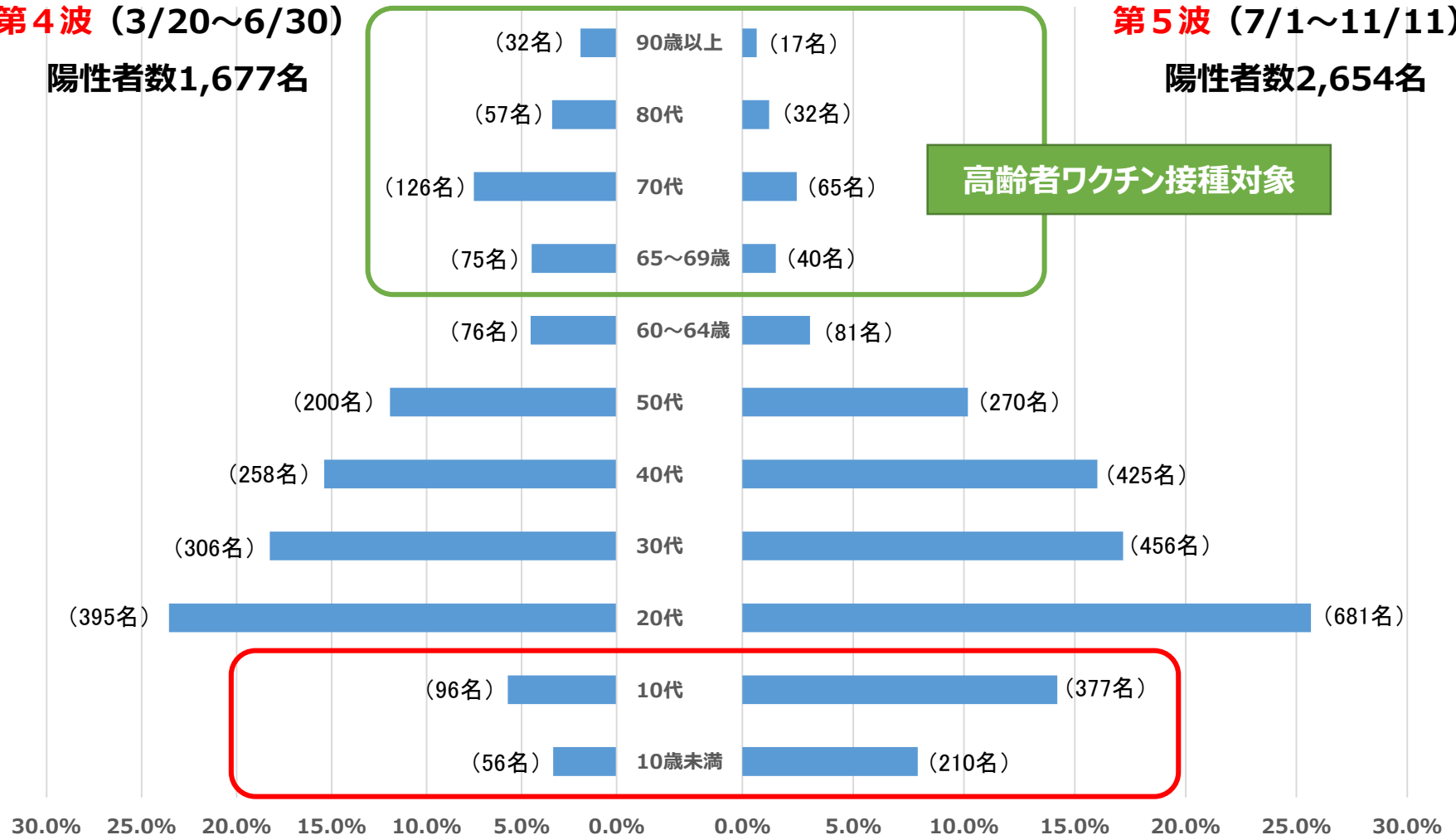
- 第4波と第5波では10代以下の比率が倍以上（帰省や旅行など県外由来の家庭内感染が多数）
- 第5波では、第4波に比べて65歳以上の比率が非常に低い ⇒ **ワクチン接種の効果とみられる**

第4波（3/20～6/30）

陽性者数1,677名

第5波（7/1～11/11）

陽性者数2,654名

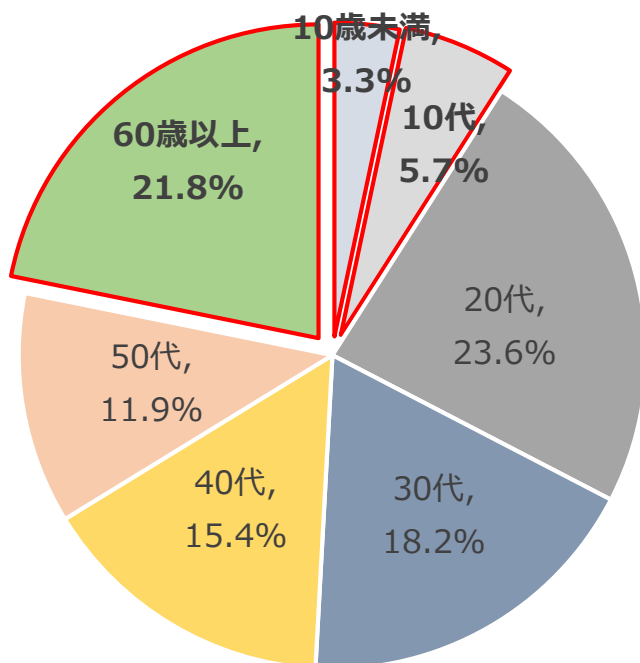


第5波の陽性者の年代（第4波との比較）

- 10代以下の陽性者の割合は、第4波の倍以上に大きく増加
- 早期のワクチン接種対象となった高齢者層では陽性者が減少

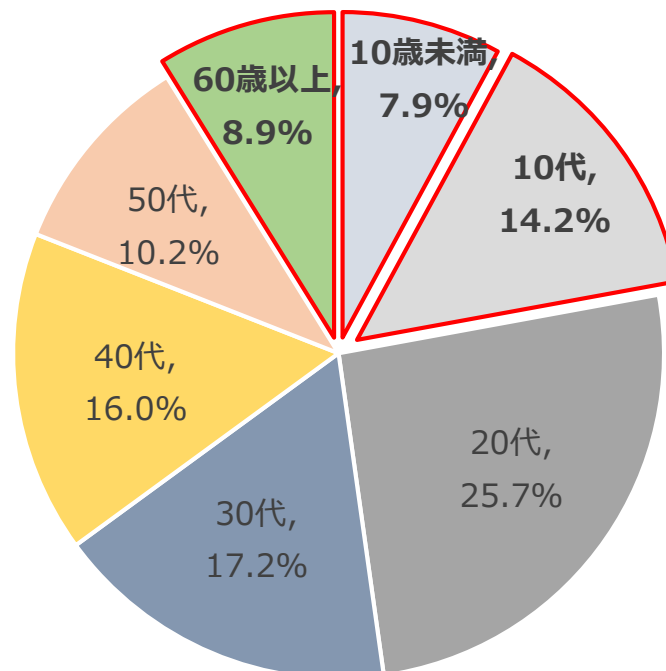
第4波

3/20~6/30 (1,677人)



第5波

7/1~11/11 (2,654人)

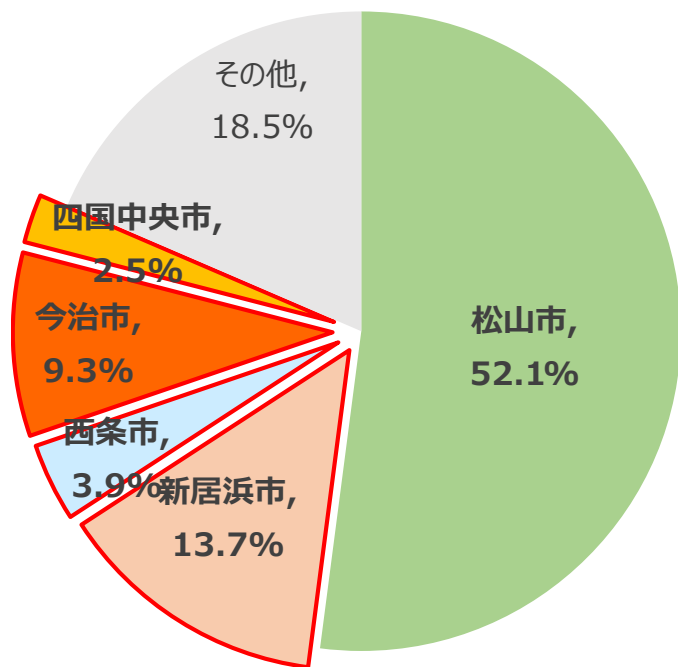


第5波の陽性者の居住地（第4波との比較）

➤ 松山市で半数以上、東予（4市）で全体の3分の1以上

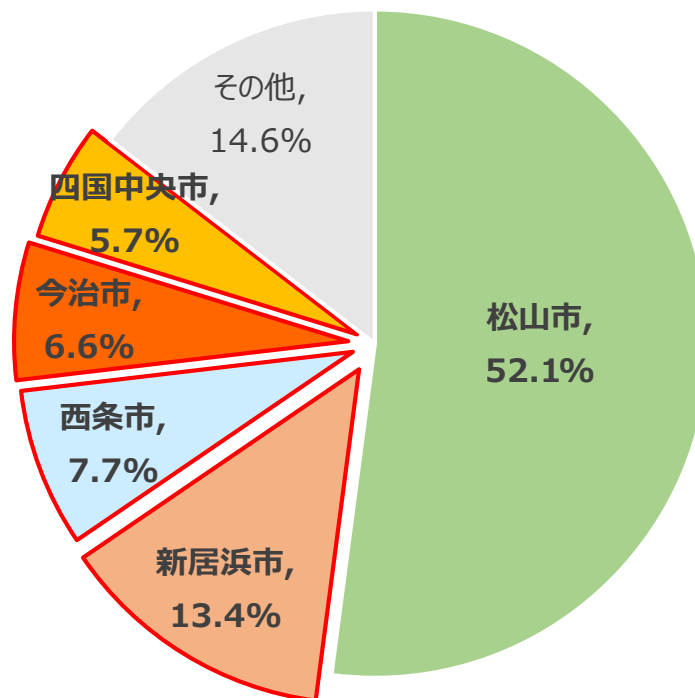
第4波

3/20~6/30 (1,677人)



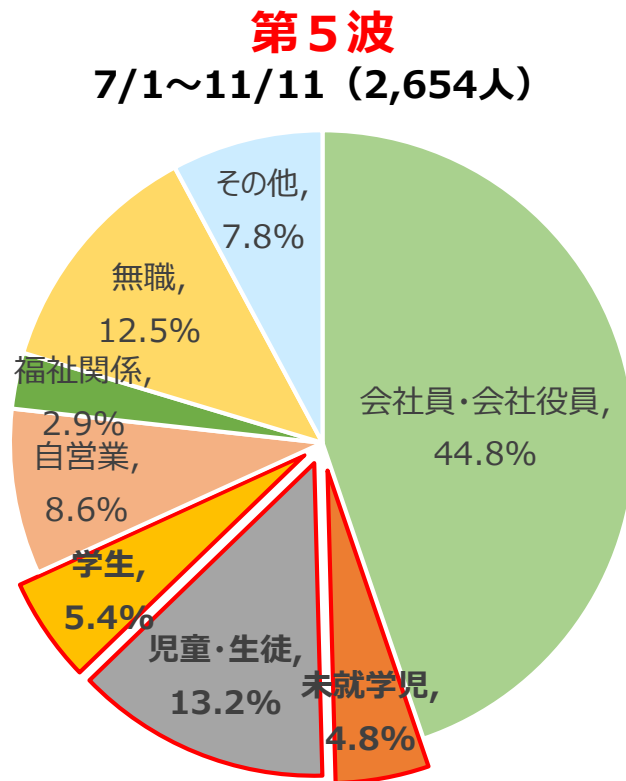
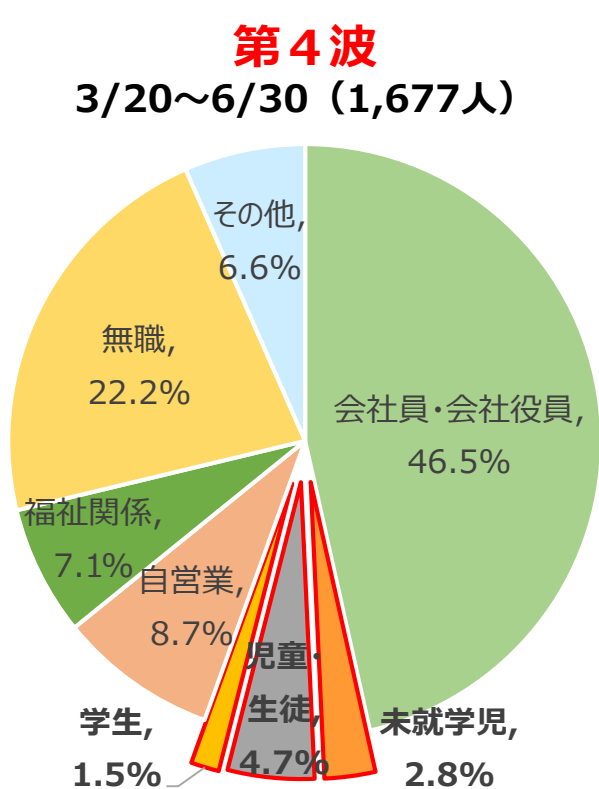
第5波

7/1~11/11 (2,654人)



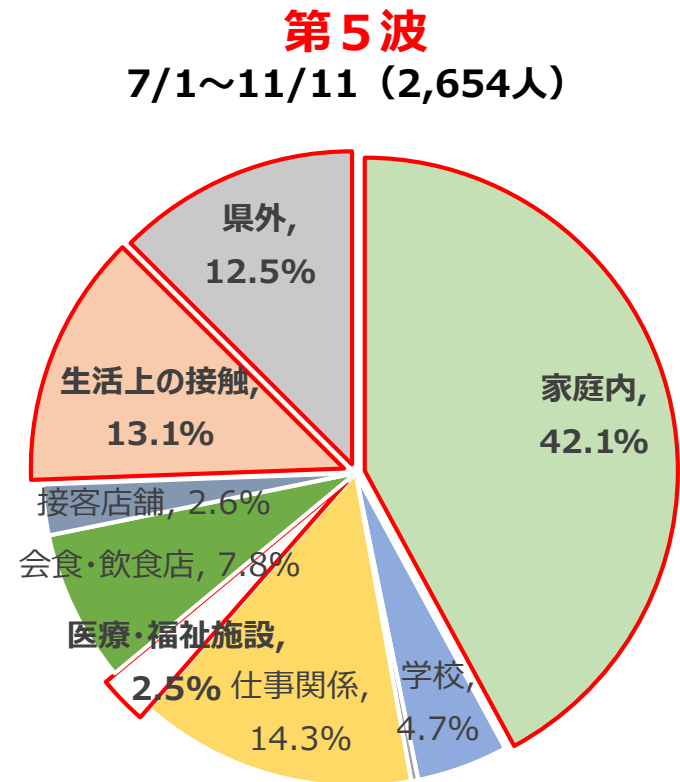
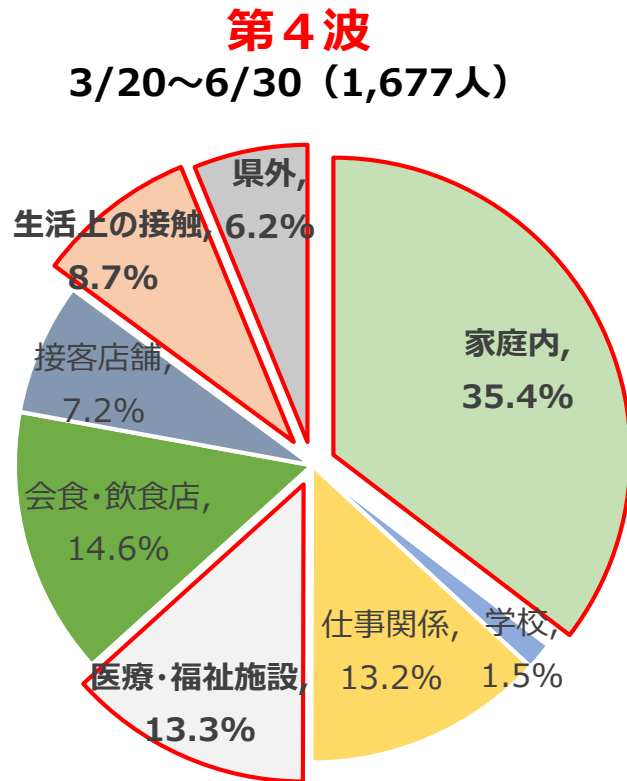
第5波の陽性者の職種（第4波との比較）

- **「未就学児」、「児童・生徒」、「学生」の割合が大きく増加**
- **学校内**での感染対策の更なる徹底を
- **家庭内**に感染を持ち込まないよう大人の**感染回避行動の徹底**が必要



第5波の陽性者の感染経路（第4波との比較）

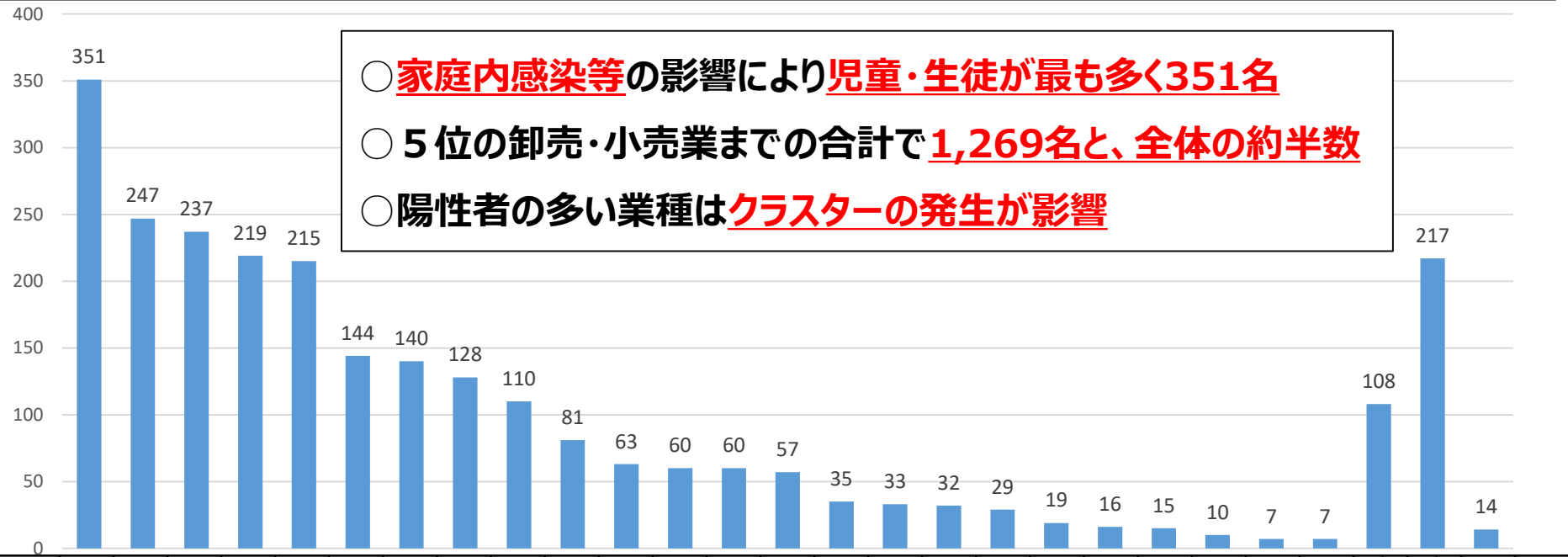
- デルタ株の感染力の強さにより、
感染経路は「**家庭内**」、「**生活上の接触**」が大きく増加
- 第5波は「夏休み・お盆期間」に重なったことで、「**県外**」が大きく増加
- ワクチン接種の効果により、「**医療・福祉施設**」は大きく減少



業種ごとの主な感染経路（上位3経路）

業 種	感染経路(割合) ※不明を除く					
児童・生徒	<u>家庭内</u>	(57.9%)	<u>学校</u>	(25.7%)	生活上	(6.2%)
建設業	<u>仕事関係</u>	(37.3%)	家庭内	(22.6%)	<u>県外</u>	(16.4%)
飲食サービス業	<u>飲食店</u>	(55.0%)	家庭内	(20.6%)	生活上	(12.5%)
製造業	<u>仕事関係</u>	(39.9%)	家庭内	(27.7%)	<u>県外</u>	(18.5%)
卸売・小売業	家庭内	(47.8%)	<u>県外</u>	(18.7%)	<u>仕事関係</u>	(15.7%)
学生	<u>生活上</u>	(44.2%)	<u>県外</u>	(29.2%)	家庭内	(15.0%)
医療・福祉	<u>家庭内</u>	(54.8%)	生活上	(17.2%)	<u>医療・福祉</u>	(16.1%)
未就学児	<u>家庭内</u>	(84.4%)	幼保	(5.7%)	生活上	(3.3%)
その他サービス業	<u>仕事関係</u>	(34.2%)	家庭内	(22.4%)	<u>県外</u>	(19.7%)
運輸・郵便業	家庭内	(34.0%)	<u>仕事関係</u>	(30.2%)	<u>県外</u>	(24.5%)
無職(入院者・入居者)	医療・福祉	(83.3%)	家庭内	(16.7%)		
その他無職(60歳以上)	家庭内	(74.3%)	医療・福祉	(13.5%)	生活上	(5.4%)
その他無職(60歳未満)	家庭内	(56.6%)	生活上	(20.7%)	県外	(10.3%)

第5波の業種別・感染経路別陽性者数



業種 感染経路	業種																											計	
	児童・生徒	建設業	飲食サービス業	製造業	卸売・小売業	学生	医療・福祉	未就学児	その他サービス業 (警備・清掃等)	運輸・郵便業	娯楽業	金融・保険業	専門技術サービス業 学術研究・ (コンサル・士業等)	生活関連サービス業 (理美容等)	教職員等	不動産・物品賃貸業	公務員	情報通信業	複合サービス業	農林漁業	電気・ガス・水道業	宿泊業	鉱業、採石業、 砂利採取業	無職(入院者・入居者)	その他無職(60歳以上)	その他無職(60歳未満)	不明		
家庭内	187	40	33	48	64	17	51	103	17	18	4	10	17	10	11	10	9	7	9	3	4	3	2	1	55	82	6	821	
学校	83							1						7														91	
幼保								7																				7	
仕事関係	1	66	6	69	21	2	3		26	16	16	11	13	7		1	8	2	2	3	3	1	1				1	279	
医療・福祉	12	1					15	3																	5	10	3	49	
会食	4	9	6	4	4	6	2	1	8	1	13	2	2	2		3				1							6	74	
飲食店	1	9	88	3	2	5	3		2	1	2			1						1						2	9	1	130
生活上	20	23	20	17	18	50	16	4	8	4	4	5	1	10	6	3	2	4	2				1	1		4	30	2	255
県外	15	29	7	32	25	33	3	3	15	13	10	7	9	2	3	2	4	7	2	3	2					3	15	1	245
不明	28	70	77	46	81	31	47	6	34	28	14	25	18	26	7	14	9	9	4	5	6	5	3	1	34	72	3	703	
計	351	247	237	219	215	144	140	128	110	81	63	60	60	57	35	33	32	29	19	16	15	10	7	7	108	217	14	2,654	

※ 感染経路は、公表後判明したものを含めて整理したもの

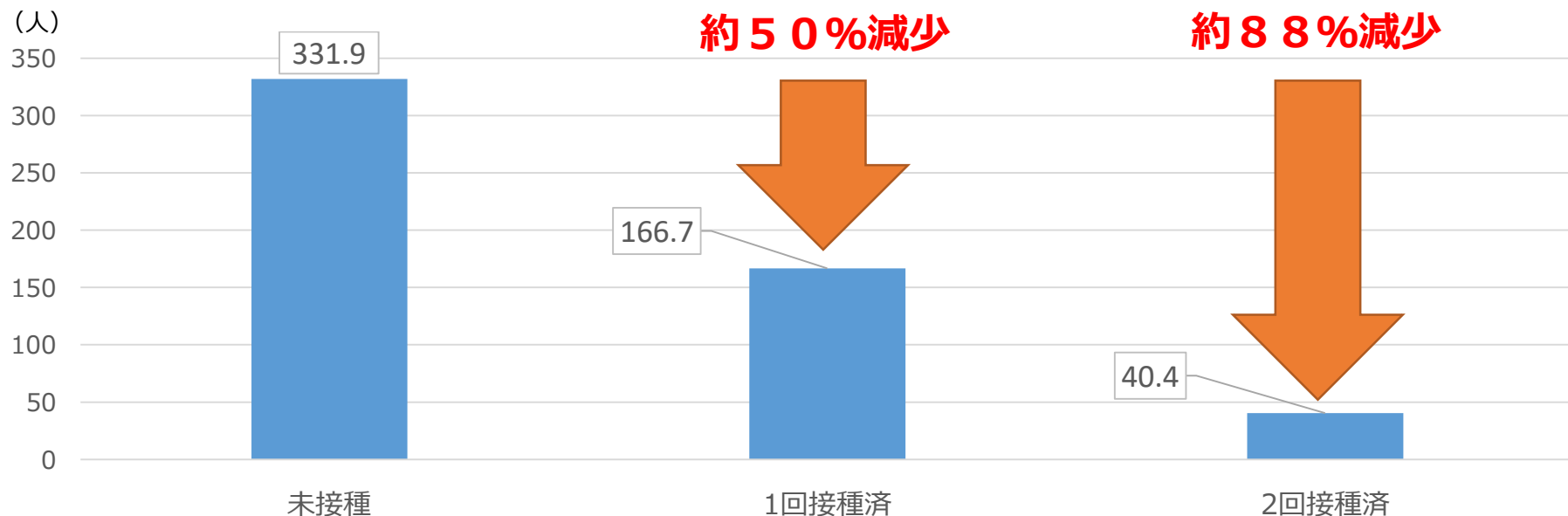
第5波における陽性者のワクチン接種の状況分析

○陽性者のワクチン接種状況

(7/1～11/11公表分)

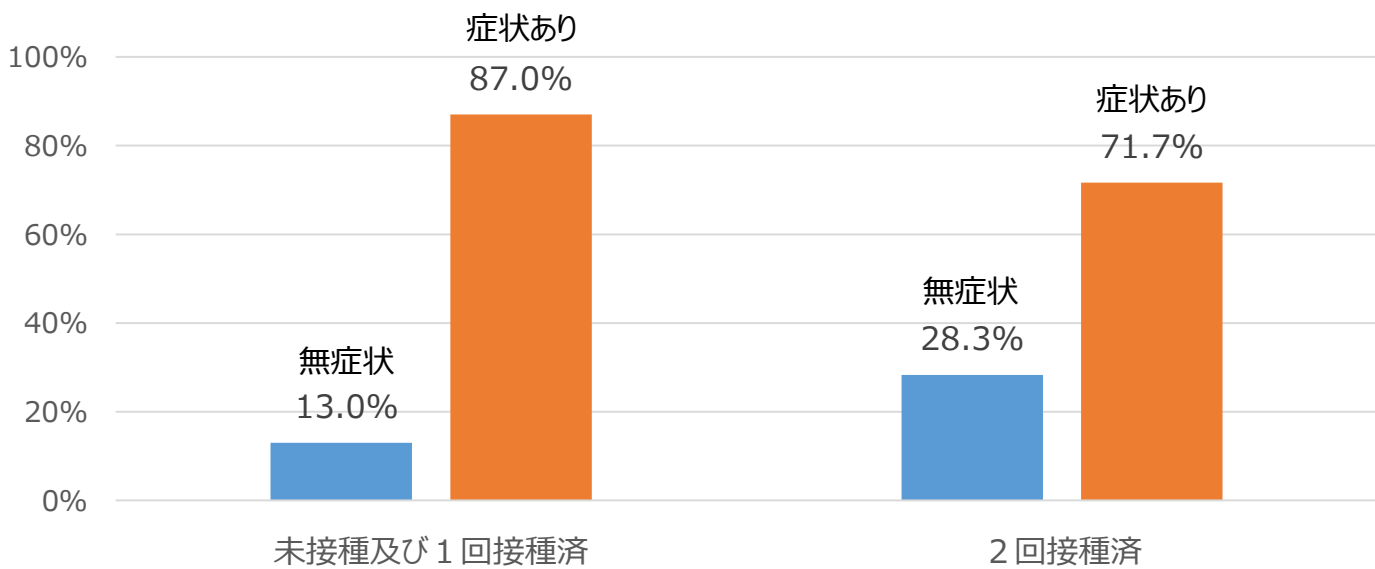
接種状況	陽性者数	割合
2回接種	226名	8.5%
1回接種	204名	7.7%
接種確認されず	2,224名	83.8%
合計	2,654名	

○ワクチン接種回数別10万人あたりの陽性確認数（試算）



※各月初めのワクチン接種・未接種状況を基に、月別の10万人あたり陽性者数を算出し、合計したものの。

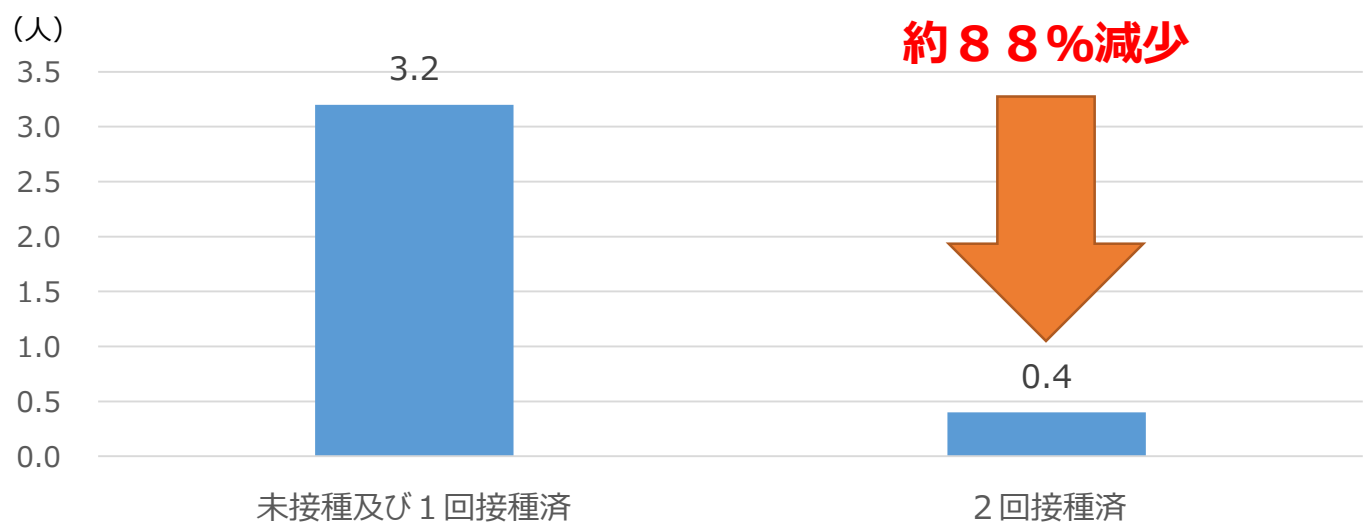
○症状の有無（検査時点）



➤ 未接種及び1回接種済 内訳

- ・未接種
 - 症状あり 86.6%
 - 症状なし 13.4%
- ・1回接種済
 - 症状あり 91.2%
 - 症状なし 8.8%

○ワクチン接種回数別 10万人あたりの重症・死亡者数（試算）



➤ 2回接種済の方で重症例なし

➤ 未接種及び1回接種済 内訳

- ・未接種 2.7人
- ・1回接種済 5.6人

※各月初めのワクチン接種・未接種状況を基に、月別の10万人あたり重症者、死亡者数を算出し、合計したもの。

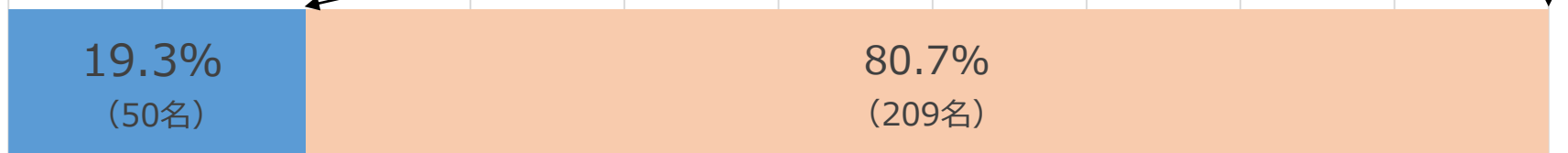
ワクチン接種と10月以降の陽性者の状況

- ワクチン接種が大きく進展し、**2回接種者は県民の8割**を超える
- 一方、10月以降の**陽性確認者は、「未接種・1回接種」者が8割**

○ ワクチン接種状況（11月9日公表時点）



○ 10月以降の陽性者のワクチン接種状況



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

第5波で直面した事態

- ◆ 県外から複数の経路で「L 4 5 2 R 変異株 (デルタ株疑)」が県内に持ち込まれ、県内で散発的に陽性確認
- ◆ 8月以降、県外からの帰省等も影響し、陽性者が急増。感染力が強いデルタ株により、陽性者、入院患者、自宅療養者ともに、第4波を上回る深刻な事態に
- ◆ 約4か月で約2,600名もの陽性者を確認し、第4波の1.5倍の40件のクラスターが発生
- ◆ ピーク時には、連日、第4波の最多を上回る数の陽性者を確認（60～100名前後）、保健所の業務量が急激に増大
- ◆ 陽性者の急増で、入院患者数が最大123名まで増加し、医療機関の負担が増大

① 医療提供体制

評価

- 患者急増時でも、更なる病床確保により、入院治療が必要な患者は、速やかに医療機関に入院できた（陽性判明した日から入院完了までに要した平均日数：0.77日）
- 感染拡大が顕著であった東予地域では、増床及び宿泊療養施設の追加により、地域内での入院等の対応力が向上した（東予地域における域外搬送率：58.4% ⇒ 34.2%）
- 自宅療養者のフォロー体制強化により、医療にアクセスできず死亡する事例の発生を防いだ（自宅療養者が医療にアクセスできず死亡した事例：なし）

対策

① 病床の確保（拡充）

- 最大確保病床数を「253床（22機関）」から「278床（26機関）」に拡充
- 第6波に備え、追加で公的医療機関で23床増床、臨時医療施設（宿泊療養施設）10室活用

② 宿泊療養施設の確保（拡充）

- 新居浜市に新たに1施設（30室）を追加し、計4施設（263室）を確保

③ 抗体カクテル療法の実施（新規）

- 県内全ての重点医療機関等（26機関）で実施可能な体制を整備
- 東予地域の指定医療機関に専用病床（10床）を一時的に開設
- 宿泊療養施設（壺湯の守別館）に、臨時の医療施設（67室）を開設

④ 自宅療養者の外来受診体制の強化（拡充）

- 自宅療養者が体調急変時に外来受診可能な医療機関を「10機関」から「31機関」に拡充

⑤ 自宅療養者の健康管理体制の強化（新規・継続）

- 医師会と連携し医師の電話診療やオンライン診療による医療（健康管理を含む）を提供
- 自宅療養者全員にパルスオキシメータを配布。酸素濃縮装置30台確保

コロナ患者の受入病床の更なる追加確保

第6波に備え、公的医療機関で23床増床、臨時医療施設(宿泊療養施設)10室活用
 最大確保病床278床 ⇒ 最大311床<33床拡充>

区 分		病床確保計画 (9/11時点)
		最大確保病床数 (床)
重症	県全体	26
中等症	県全体	252
	東予	77
	中予	106
	南予	69
合 計 (医療機関数)		278 (26)



今回拡充 (11/11現在)	
最大確保病床数 (床)	増加数 (床)
26	—
285	+33
80	+3
134	+28
71	+2
311 (28)	+33 (+2)

第5波の域外搬送状況（第4波との比較）

県全体として

- ・第5波では第4波と比べて、全体の域外搬送率は約7ポイント減

特に東予地域について

- ・第5波では、全体の域外搬送率は約24ポイント減
- ・病床の確保（58床→77床）及び新居浜ヒルズの開設（30室）により、搬送者数が倍増（226人→489人）したにも関わらず、入院者の域外搬送率はほぼ横ばいに抑えられ、宿泊療養者の域外搬送率は約54ポイント減

管轄保健所所在地域		全 体		うち入院		うち宿泊療養	
		第4波	第5波	第4波	第5波	第4波	第5波
東予	域外搬送率(%)	<u>58.4</u>	➡ <u>34.2</u>	<u>23.0</u>	➡ <u>24.0</u>	<u>100.0</u> (104人)	➡ <u>46.4</u>
中予	域外搬送率(%)	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0
南予	域外搬送率(%)	24.7	18.8	10.3	0.0	100.0 (13人)	100.0 (16人)
域外搬送率(全県)		<u>21.6</u>	➡ <u>15.1</u>	9.5	10.4	37.4	20.1

※搬送者数＝入院者数＋宿泊療養者数

域外搬送者数＝搬送者数のうち、管轄保健所の所在地域と異なる地域の医療機関又は宿泊療養施設へ搬送された人数

○第4波 (R3.3.20~6.30)

		医療機関等所在地							
		東予			中予			南予	総計
		入院	宿泊	合計	入院	宿泊	合計	入院	
管轄保健所 所在地域	東予	94	0	94	28	104	132	0	<u>226</u>
	中予	1	0	1	216	196	412	3	416
	南予	1	0	1	6	13	19	61	81
	総計	96	0	96	250	313	563	64	723

域外搬送者：156人 域外搬送率：21.6%

○第5波 (R3.7.1~11.10 現在)

		医療機関等所在地							
		東予			中予			南予	総計
		入院	宿泊	合計	入院	宿泊	合計	入院	
管轄保健所 所在地域	東予	203	119	322	64	103	167	0	<u>489</u>
	中予	0	0	0	280	355	635	0	635
	南予	0	0	0	0	16	16	69	85
	総計	203	119	322	344	474	818	69	1,209

域外搬送者：183人 域外搬送率：15.1%

②検査体制

評価

- 市町と連携した臨時検査センター等の開設や、事業所等での自主検査の推奨、高齢者施設等の一斉検査など、感染状況等に応じた多様な検査手法により、感染の広がり等を早期に探知

対策

①検査体制の強化（拡充）

- PCR検査装置5台（最大293件/日）をフル活用し、ゲノム解析体制を確立（ゲノム解析装置1台活用）

②臨時検査の実施（拡充）

- 松山市繁華：街接待を伴う飲食店や深夜営業のバーの従業員等にモニタリング検査を実施

臨時PCR検査センターの設置	2回目（8/10～13）	1,618件中10件陽性（陽性率0.62%）
モニタリングキット配布ステーションの設置	3回目（7/28～8/3）	417件中 0件陽性（陽性率0.00%）
	4回目（9/13～16）	371件中 0件陽性（陽性率0.00%）
	5回目（10/8～13）	339件中 0件陽性（陽性率0.00%）

- 新居浜市・西条市：飲食店の従業員や県外往来等があった方にモニタリング検査を実施

臨時PCR検査センターの設置	2回目（8/10～13）	新居浜：1,105件中1件陽性（陽性率0.09%）
		西条： 820件中0件陽性（陽性率0.00%）
	3回目（10/6～8）	新居浜：1,894件中2件陽性（陽性率0.01%）

③高齢者施設等一斉検査の実施（継続）

高齢者施設等	63施設	2,795件中8名陽性（陽性率：0.29%）
--------	------	------------------------

④事業所でのクラスター発生時の自主検査の推奨（新規）

- 大規模事業所でのクラスター発生時に、施設による自主検査を実施し、感染の広がりを早期に把握

⑤自主検査制度の活用（抗原キットの配布）（新規）

- 医療機関、福祉施設、学校等へ、出勤・登校後の軽い有症状者等へ配布

第5波の検査状況

総検査数：63,474件（陽性者数：2,627名（陽性率4.1%））

➤【有症状者】検査数38,951件（陽性者数：1,029名（陽性率2.6%））

⇒ 引き続き、医療機関と連携して迅速な検査を実施

➤【無症状者】検査数9,359件（陽性者数：21名（陽性率0.2%））

⇒ 感染の兆候等を踏まえ、ターゲットや目的を明確に設定して検査を実施

区分	検査数	陽性	陰性	陽性率
新規（症状のある方が中心）	38,951	1,029	37,922	2.6%
衛生環境研究所	99	11	88	11.1%
地域検査センター（松山市ドライブスルー）	675	47	628	7.0%
診療・検査医療機関	38,177	971	37,206	2.5%
既存（保健所の疫学調査に基づく検査）	15,164	1,577	13,587	10.4%
濃厚接触者	7,472	1,157	6,315	15.5%
その他接触者	7,692	420	7,272	5.5%
一斉検査（無症状の方を対象）	9,359	21	9,338	0.2%
繁華街 臨時PCR検査センター （松山市・新居浜市・西条市）	5,437	13	5,424	0.2%
松山市繁華街 モニタリングキット配布ステーション	1,127	0	1,127	0.0%
高齢者施設スクリーニング検査 （松山市）	2,795	8	2,787	0.3%
合計	63,474	2,627	60,847	4.1%

※7月1日～10月31日公表分を集計。

③保健所体制

評価

- 一部の保健所で一時的に疫学調査の重点化を余儀なくされたが、初動対応は応援体制の強化により、迅速に実施できた（陽性判明当日の保健所からの連絡率：約95.5%）

対策

①保健所応援体制の強化（拡充）

- 市町や各団体からの応援派遣スキームを最大限活用
- 保健師以外の専門職（医師、薬剤師、臨床検査技師等）、市町保健師による疫学調査実施
- 地方局・支局による保健所応援体制の拡充
- 患者、濃厚接触者等のタクシー移送体制の拡充

②保健所の業務の効率化・省力化（拡充）

- HER-SYSのさらなる活用
濃厚接触者等の健康観察に「MY HER-SYS」利用
- 疫学調査の平準化等（聞き取り内容の統一化）

③災害発生時に備えた自宅療養者の対応（新規）

- 自宅療養者の宿泊療養施設への予めの避難スキームを構築
- 宿泊療養施設への避難が困難な場合等の専用避難所の確保等を市町に働きかけ
- 市町の避難所への避難を想定した研修会を開催

第5波陽性者（7/1～10月31陽性判明2,628名）の保健所対応状況

応援体制を総動員して保健所体制を強化→初動対応の遅れを防ぐことができた。

- ・陽性判明当日の保健所からの連絡率：約95.5%
- ・陽性判明した日から入院完了までに要した平均日数：0.77日

1. 陽性判明した日から保健所が連絡するまでに要した日数

連絡に要した日数	人数	割合
0日（陽性判明当日）	2,511名	95.5%
1日（陽性判明翌日）	116名	4.4%
その他	1名	0.0%
合計	2,628名	100%

2. 陽性判明した日から入院完了までに要した日数

入院完了までに要した日数	人数	割合
0日（陽性判明当日）	95名	23.1%
1日（陽性判明翌日）	316名	76.9%
2日以上	0名	0.0%
合計	411名	100%

※陽性判明後、直ちに入院が必要と判断された方

④ クラスター対策

評価

- ワクチン効果で医療機関、高齢者施設クラスターが減少した一方、職場内・仕事関係クラスターが増加
- 軽度の接触や、複数経路での感染の持ち込みなど、感染の広がりへの把握が困難なケースあり
- 保健所による行政検査と並行した事業所による自主検査により、感染の広がりを早期に探知
- 一部、イベント参加者への呼び掛けに応じないケースで、囲い込みに至らなかった事例あり

対策

① 「えひめクラスター対策班」の派遣（継続）

- クラスター対策班（感染制御の専門医師等）を派遣し、施設内のゾーニング等の感染管理指導を実施 ※派遣実績：6施設へ延べ15人
- 看護協会等と連携し、保健所との連絡会議を開催するなど、迅速な派遣体制を構築

② 院内・施設療養フォロー体制（継続）

- 保健所・県（市町）が施設側と迅速に連絡を取り、円滑な意思疎通を実施
- 陽性者発生時の医療機関等への国や県の支援メニューをパッケージ化し、提示

③ 「E-WELネット」による応援体制（継続）

- 施設相互の応援体制により、介護職員を応援派遣 ※第5波実績なし

④ 「E-ナースネット」等による応援体制（継続）

- 助け合いネットワークを構築し、看護師を医療機関へ応援派遣 ※第5波実績なし

⑤ 事業所でのクラスター発生時の自主検査の推奨（再掲）

⑤ 繁華街対策

評価

- 飲食店に対して、連絡先を含めた利用者の把握等を繰り返し呼びかけたことで、飲食店クラスター7件において、利用客の追いかげができ、早期の囲い込みに繋がった
- 繁華街におけるモニタリング検査等において、検査協力を得られない飲食店が散見

対策

① 飲食店認証制度の普及・拡大 (拡充)

- 認証手続きの迅速化に向けた認証事務局の体制強化
- 感染対策マネジメントリーダー設置認証店に感染対策強化費として5万円を支給
- 認証を受けた店舗のPR (県HPへの掲載等) ※認証店舗数：1,012店舗

② 飲食店への協力依頼 (継続)

- 時短期間中、松山市と連携した飲食店の見回りや協力状況の確認等を実施
- まん延防止期間中は、ガイドラインの遵守状況の確認や遵守の呼びかけを実施

③ 松山市独自の取り組み (拡充)

- 約300店舗に抗原キット (36,000個)を順次配布 (定期検査)

④ 新居浜市独自の取り組み (新規)

- 小学校や保育所、幼稚園等でのクラスター発生防止のため、抗原検査キットを配布
- 街頭での感染回避行動等の呼び掛けを実施

⑤ 時短営業要請に応じない店舗の店名公表等 (継続)

- 8店舗へ営業時間の変更命令・店名公表、4店舗に対する命令・過料通知

⑥ 県民への情報提供等

評価

- 人流データの活用や、陽性者のワクチン接種状況、感染拡大が顕著な市町の詳細な陽性者分析等を通じて、これまで以上にきめ細かな注意喚起を実施

対策

① 県民への情報提供の実施（拡充）

- 人流データを活用した市町の感染状況に応じたきめ細かな注意喚起を実施
- 陽性者のワクチン接種状況、感染拡大地域（新居浜市）の感染状況等の分析を実施

② 迅速かつ適切な注意喚起（継続）

- 感染拡大の兆候やシグナルを早期に探知し、会見で具体的に分かりやすく言及

③ 総合的な広報啓発事業（新規）

- テレビCMやWEB・新聞広告など多様な媒体を活用したワクチン接種への理解促進の実施

対 策

④高齢者施設面会モデルの構築【対応中】

- 入所高齢者と家族等が安全・安心に面会を行うための方法等を検証し、施設の特性に応じた感染防止を図りながら面会が継続できる仕組みを構築

- ・ 協力施設：特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅
- ・ 実施内容：施設で面会を試行実施 ⇒ 県と施設で検証 ⇒ 面会モデルを確定・周知

⑤県立学校の休業措置対応の変更による学びへの影響最小化【今後実施】

- 臨時休業を措置する場合は「全校対象」とする原則は変更しないが、保健所による調査結果に基づく検査対象範囲等の状況に応じて、「学年・学級閉鎖」による対応も可能とするよう変更

- ・ 陽性者が確認された学校延べ224校中、陽性者が1名のみ止まる割合は81.3%（延べ182校）
 - ・ 臨時休業した学校延べ30校中、検査対象者が学級内に止まった割合は33.3%（延べ10校）
- ※学校は小、中、高等学校（私立学校を含む）

⑥公表内容の追加【今後実施】

- 陽性者の保健所対応状況を毎週公表（1週間累計）
 - ・ 陽性判当日の保健所からの連絡率
 - ・ 陽性判明日から入院完了までに要した日数

⑦変異株検査体制の変更【今後変更】

- 衛生環境研究所による変異株PCR検査を一時中断（ゲノム解析は継続）
- 新たな変異株発生時にはPCR検査を再開